

2 各学年

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
1 学 年	①健康的な生活習慣の確立 ②たしかな基礎学力の養成 ③チャレンジ精神、探究心の醸成	遅刻、早退、欠席をせずに、集中して授業に臨めるよう指導する。	生徒と日常的にコミュニケーションを取る機会を多く設けることはもちろん、宅習記録を活用し、生徒の生活習慣の乱れや気持ちの変化などを早期に捉え、適切に指導、対応することにより、活力ある学校生活へとつなげさせる。	
			学校や社会のきまり、時間を守ることの大切さを理解させ、規律ある高校生活を送らせる。	
		学習習慣を確立させ、授業をとおして、基本的知識とその活用能力を養成する。	健康的な生活習慣を土台に、新入生研修や各種講演会等を通じ、授業第一の姿勢で集中して取り組むことの重要性を認識させ、予習・授業・復習（学習到達度確認問題）の学習スタイルを定着させる。	
			個別の声かけや継続に向けたアドバイス、放課後等の指導・支援等を通じ、自宅学習の習慣を定着させる。	
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図る。	
		将来の目標や理想像を自ら設定し、自分の人生を自分でデザインしていく能力の基礎を養う。	新入生研修、進路説明会や各種講演会をとおして、自己を見つめ、将来について深く考える機会を年間を通じて計画的に設ける。	
生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	個別面談を年間少なくとも3回実施し、予定されている三者面談に加え、必要に応じて保護者への連絡、面談を行う。			
2 学 年	①学習を中心とした生活習慣の確立 ②確かな基礎学力の完成と応用力の養成 ③主体性、探究心の醸成	遅刻、早退、欠席をせずに、集中して授業に臨めるよう指導する。	宅習記録を活用し、生徒の生活習慣の乱れや、気持ちの変化を早期にとらえ、適切な指導、対応により活気ある学校生活へとつなげる。	
			予習・復習、週末課題に取り組みせ、自宅学習の習慣を定着させる。	
		各教科の基礎的知識・技能を定着させ、論理的思考力、判断力、表現力の向上を図る。	日々の授業や学習到達度確認問題を実施する中で、学習した内容を反復学習させ、確実に理解させる。	
			授業等で大学入試を意識した発展的内容にも触れさせ、基礎的知識・技能をどう応用に結びつけるか考えさせる。	
			レポート作成や発表活動などをとおして、論理展開に注意し、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための表現力を養う。	
		将来の目標や理想像を自ら設定し、自分の人生を自分でデザインしていく能力を養う。	進路説明会や各種講演会、志望理由書作成等をとおして、自己を見つめ、将来について考える機会を年間を通じて計画的に設ける。	
生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	個別面談を年間少なくとも3回実施し、予定されている三者面談に加え、必要に応じて保護者への連絡、面談を行う。			

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
3 学 年	①自己調整能力の育成	「キャリア教育」を計画的に実行し、学年団、保護者で情報を共有しながら、生徒の自立を促す。	「キャリア教育」としてのHRを計画的に実施し、生徒の自己理解を促し、自己管理能力を高め、自らの生き方・あり方を主体的に考える態度を養う。	
			個別面談及び進路に関する検討会を、明確なねらいのもとで計画的に実施し、生徒の進路選択を支援する。	
	②確かな基礎学力の完成と応用力の養成	授業や自主学習を通じて基礎学力を定着させ、目標に向かって主体的に学習に取り組む態度を育てる。	生徒の基礎学力向上に資する授業を実践する。	
			日々の授業や学習到達度確認問題を実施する中で、学習した内容を反復学習させ、確実に理解させる。	
	③主体性、探究心の醸成		進路講演会、進学補習や添削指導、小論・面接指導をとおして、生徒各自の進路希望実現を支援する。	
			大学進学率90%以上を達成する。	
			学校行事等への参加や進路学習において、自ら考え、自ら計画し、自ら動き出せる生徒を育てる。	
			学校生活全体をとおして、最高学年としてのプライド、責任感を持った行動を促す。	
		自分の興味や将来の目標にしたがって、広い視野で進路研究を行い、他者と協働しながら学びを深める機会を多く持たせる。		